

海賊対処行動水上部隊が無事任務を終え帰港

～ 第 49 次派遣海賊対処行動水上部隊帰国式典の様様 ～

第 49 次派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向けて、2024 年 10 月に日本を発って以来、約 6 か月ぶりとなる 2025 年 4 月 19 日に横須賀（神奈川県）に帰港した。

同隊は、早川正紘艦長が指揮を執る護衛艦「むらさめ」であり、松田智紘隊長ら 8 名の海上保安官を含む約 200 名の乗員が、事故無く任務を遂行し、無事帰国した。

派遣期間中は、ソマリア沖・アデン湾周辺海域においてゾーンディフェンスで商船の安全を確認したほか、中東地域における関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動も行ってきた。

式典では、自衛艦隊司令官 大町克士海将が、「無事帰国したことを大変うれしく思う。197 日におよぶ派遣期間中、海上保安官とも緊密に連携し、海賊対処行動および情報収集活動を行うことで我が国を始めとする商船の安全航行に大きく貢献した。派遣期間中の諸君の努力と献身に敬意を表する。」と訓示した。

また、彼末浩明海上保安監は、隊員に対して今回の任務の成功に最大の敬意を表するとともに、今後の活躍を期待する旨の挨拶を行った。

当協会の明珍幸一会長は「第 49 次海賊対処行動水上部隊のみなさま、警戒監視活動、本当にありがとうございました！」と、半年以上におよぶ任務に謝意を伝えた。

帰国式典に引き続き、明珍会長から早川艦長へ、中東周辺海域の航行上の脅威が続くなかでの任務に対する感謝の言葉とともに感謝状の贈呈を行った。

明珍会長は 4 月初旬に自らが団長として訪問団を結成し、ジブチ共和国における自衛隊の海賊対処行動拠点を訪問して現地の環境の厳しさを体感しており、ジブチ訪問および今回の感謝状贈呈と、海賊対処行動に従事する隊員へ改めて感謝の気持ちを伝える機会となった。

当協会からは明珍会長をはじめ、土屋副会長、篠原理事長、平尾常務理事、川崎汽船 三好安全運航チーム長、伊藤チーム長、商船三井 米田海上安全部長、日本郵船 進藤海務グループ長、三菱鉱石輸送 近藤船員戦略グループ長、関経理・財務グループ長が、国際船員労務協会から井上会長、池田常務理事、今田理事が、全日本海員組合から松浦組合長、池谷国際局長らが参加した。

(海務部 事務局)

帰国行事



出席した明珍会長



帰国報告する早川艦長



訓示する大町自衛艦隊司令官



挨拶する彼末海上保安監



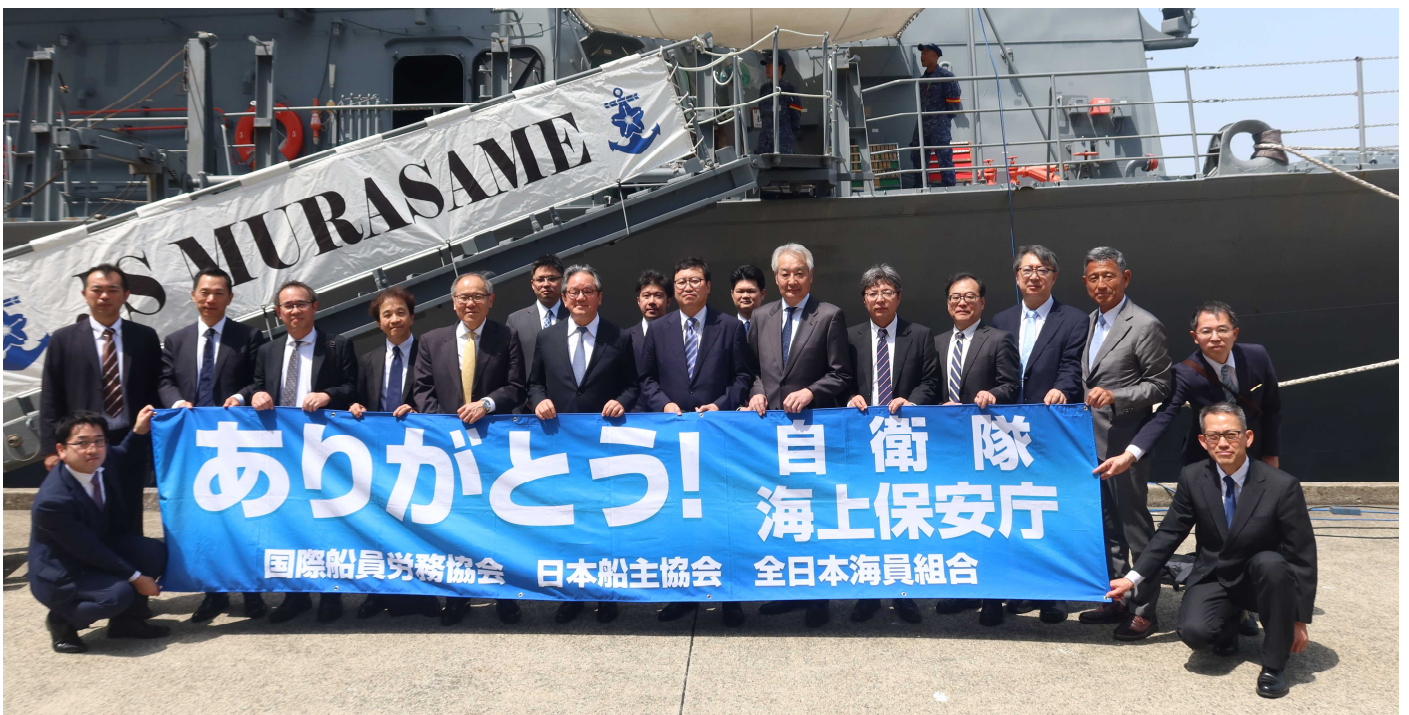
挨拶する明珍会長



左から松田隊長、明珍会長、早川艦長



早川艦長へ感謝状を贈呈する明珍会長



護衛艦「むらさめ」前にて